

いのちの言の葉

「それでも人生にイエスと言う」(道徳)

富山市立城山中学校 対象：3年生徒、保護者

富山県教育委員会 平成20年度いのちの教育支援事業 平成21年1月15日

「心の自由の中に真の喜びを見つける」

ナチスの強制収容所で生き残った人

- ①過酷な環境であっても、「愛」を実践できた人。
- ②絶望的な環境にあっても、「美」を意識できた人。
- ③どんな環境にあっても、「夢」を捨てなかった人。

永田 円了 先生のプロフィール

元富山国際学園(富山短大&富山国際大学)人文学部教授。
寺院住職の傍ら、現在はフリーで年間60回ほどの講演活動を行う。

第二次大戦中、ナチスの強制収容所では、過酷な労働を強いられる極限の中で、亡くなった人がたくさんいました。しかし、その環境にあっても、生き残った人がいました。過酷な環境にあっても「愛」を実践できた人。絶望的な環境にあっても「美」を意識できた人、どんな環境にあっても「夢」を捨てなかった人です。生死を分けたのは、「身体的な強さ」ではなく、「心の持ち方」だったということを知り、強い心をもつことが大切なんだと思いました。

中国人留学生、ワン・ハイシアさん自らのガン再発に対する心の葛藤を述べているのを聞いてすごく心に響きました。「人は何か悩み、苦しむときこそ、運命に試されたときである」という言葉から、悩んだり苦しんだりすることは神様からの試練なんだと思い、かけがえのない人生を精一杯生きていこうと思いました。

【内容】

- 1 環境さえよくなれば、人間はよくなるのか。
- 2 第二次大戦中、ナチスの強制収容所で生き残ったのはどんな人か。
- 3 外国人による日本語弁論大会で発表した中国人留学生の話。

人が絶望的状况の中におかれていても、愛する心を忘れず、美をもち、夢を捨てず前に向いていけばきっと助かる、たとえ助からなくても、その人の人生はあきらめていた人より広く深くなるだろうなと思いました。

私は、似たような言葉を聞いたことがあり、今でも胸に残っています。だから、ワン・ハイシアさんの「晴れであろうと、曇りであろうと、このかけがえのない人生を意味深いものにしていきたいと思います」という言葉と重なり、ハッとしました。

生き残ったユダヤ人もワン・ハイシアさんも絶望せず最後まであがいた結果、運命に手を差し出されたんだと思いました。私も乗り越えるため、最後の最後まであがいていきたいと思います。

